



▲たくさんのコブがボールの軌道を変化させるその名も「ターンコーヴ」。他にも「反抗的な坂道」や「いずみおろし強風注意報」など、思わず笑ってしまったような名前のコースが用意されました。

1月11日から2月5日まで「定禅寺パターゴルフ??倶楽部!!」がせんだいメディアテークで開催されました。これは、障害の有無や年齢に関わらず多様な方々が交流を深めることを目的に企画されたもので、パターゴルフを楽しめる展示会です。大阪を拠点に活動する「コンタクトゴング」と「ドットアーキテクト」の2組のアーティストが制作した、ユニークなパターゴルフ場が開設されました。パターは、段ボールとガムテープを使ったもので、自ら作ることも可能。巨大なワニが障害物となつて行く手を阻んだり、扇風機でボールが押し戻されたりと、一筋縄ではいかない7つのコースが参加者の前に立ち並びます。

市政トピックス

目指せホールインワン！ゴルフ場が出現！



▲石灯笼は、通称サムライ・コレクションと呼ばれる「アン&レクシオン」と呼ばれる「アン&レクシオン」と呼ばれる「アン&レクシオン」に設置されました。



▲スタンフォード大学のリチャード・ダッシャー教授による講義に参加後、意見交換を行いました。

市政トピックス

仙台市公式訪問団が米国のダラス市・シリコンバレーを訪問

1月17日から22日にかけて、郡市長をはじめとする仙台市公式訪問団が、国際友好都市提携25周年を迎えた米国のダラス市と、多くのスタートアップ（急成長を目指す企業）が集積するシリコンバレーを訪問しました。

ダラス市で行われた歓迎式典では、エリック・ジョンソン市長や関係者の皆さんに、これまでの友好交流への感謝を伝えたほか、青葉山エリアのまちづくりなど、交

市政トピックス

流人口拡大に向けた本市の取り組みを発信しました。また、四半世紀に及ぶ友情の証として、本市特産の秋保石を使用した「石灯笼」を寄贈。石灯笼は、現地の博物館に設置されることとなり、その除幕式にも出席しました。そのほか、日系スーパーマーケットに設けられた特設売り場では、お米や日本酒といった仙台・宮城の特産品の紹介を通して、本市の魅力もPR。文化・観光・経済などさまざまな分野で、今後のさらなる交流促進につながる機会となりました。

シリコンバレーでは、本市のスタートアップ支援をさらに発展させるため、多数の起業家を輩出するスタンフォード大学などを訪問。学生や研究者、現地スタートアップから話を伺い、「市場を世界に広げることがスタートアップの成功につながる」といったアドバイスを受けたほか、支援施策や人材育成等について意見を交わしました。仙台・東北から世界の社会課題を解決するスタートアップを生み出せるよう、得られた知見を生かし、取り組みを加速していきます。

市政トピックス

多角的な視点で音楽ホールの魅力に迫る

1月29日には家族対抗のコンペが開催され、障害のある方やその家族などが参加。初対面の家族同士がチームを組み、得点を競いました。難関コースを前に、思うようにいかず苦戦を強いられるも、チームのアドバイスで狙いを定め、一打がゴールに迫ります。見事カップインすると、「ナイスショット！」の掛け声と大きな拍手で喜びを分かち合うなど、「ナイススマイル！」な表情で、夢中に楽しむ姿が見られました。

中心部震災メモリアル拠点との複合整備の検討を進める、音楽ホールの在り方を考えるシンポジウム「ホールの楽しみー響き」を巡って」が2月4日、エル・パーク仙台で開催されました。

当日は、劇場計画研究者の本杉省三氏、音響コンサルタントの小口恵司氏、指揮者の広上淳一氏が、それぞれの立場でホールの歴史や魅力などについて講演。その後3人により行われたパネルディスカッションでは、「音楽ホールだけでなく、そのエリア全体の魅力を高めることが大切」などの意見が出され、参加者とともに、音楽ホールの未来像を描きました。

市政トピックス

歴史民俗資料館の建物が県指定有形文化財に指定されます

本市指定有形文化財であり、歴史民俗資料館として親しまれる「旧歩兵第四連隊兵舎」について、2月3日、新たに県の指定有形文化財に指定するよう、宮城県文化財保護審議会が県教育委員会に答申しました。



この建物は、明治初期に仙台に置かれた旧陸軍歩兵第四連隊の兵舎で、榴岡公園の整備に伴い、現在の場所に移築されました。県内に現存する最古の木造洋風建築で、建物の四隅に装飾されたコナーストーンや、出入り口の円柱ポーチといった洋風要素と、鬼瓦を使った瓦ぶき屋根など日本の伝統建築要素を併せ持つのが特徴的です。明治初期の兵舎としては全国にも現存例が少なく、貴重なものであることが評価されました。

市政トピックス

スポーツで活躍した個人・団体を表彰

2月2日に「仙台市スポーツ賞」の表彰式を開催し、合わせて



▲佐藤和花選手



▲佐藤悠斗選手

77組に大賞、栄光賞、優秀賞、奨励賞、功労賞を贈呈しました。これは、昨年1年間にアマチュアスポーツの分野で優秀な成績を収めた方や、本市のスポーツ振興に貢献された方に贈るものです。大賞は、団体の部からは、第104回全国高等学校野球選手権大会において、東北勢初の優勝という快挙を成し遂げた仙台育英学園高等学校硬式野球部が受賞。個人の部では、第87回日本オープンゴルフ選手権競技において、95年ぶりとなるアマチュア優勝を果たした蟬川泰果選手が受賞しました。

市長コラム

春夏秋冬

仙台市長 郡 和子

子育てが楽しいまち・仙台の実現へ

春。卒業、入学、就職や転勤など、人の移動が1年で最も多くなる季節です。この時期は、転入や転出手続きの繁忙期を迎えます。仙台市では、コロナ禍でも転入超過が続いており、人口110万人に迫る状況です。

たとえば、合計特殊出生率が高いとしても、女性人口が少なければ、そのエリアの子どもの数は減っていくこととなります。そうした視点で見ると、仙台市はどうでしょう？仙台市は、学生さんも含めて若い人たちが多く暮らしており、これはとても大きな強みです。その強みを生かすためにも、それぞれ望む多様な仕事はあるか、自分らしい生き方が尊重されるか、そして困難を抱えた方に支援の手が届いているか、こういった環境を整えて、このまちを暮らしやすく、住み続けていただけるようにつなごうと、重要なミッションだと私は思っています。

1・08に次いで2番目に低く、シヨックが走りました。ですが、国勢調査によると、一番低い東京都の0歳～14歳の子どもの人口は2005年からずっと増加し続けていて、少子化のイメージとは異なる状況のこと。なぜでしょう？若い女性たちが次々東京に移転・定着することで、出生数も多くなる一方、分母が増えることで出生「率」は低くなってしまう。逆

新年度（仮称）仙台こども財団」を設立したいと考えています。これも、社会全体で子どもを真ん中に据えた施策を進め、安心して子どもを産み育てていただけるようにとの思いからです。「こんにちは赤ちゃん、ここが杜の都・仙台です！」と胸を張れるよう、そしてママ・パパに子育てを楽しみ思ってもらえるよう頑張ります。

● 次回の掲載は6月号を予定しています